

Society5.0・Connected Industries実現に向けて

第4回セミナー「被災地の「今」、日本の「これから」を考えよう」

～震災からの本設商店街再建と今後の持続的発展に向けて～

～目指せ！日本一ゆる～い産学官金協同体～(略称:ゆる協)

＜開催報告＞

中小機構東北本部では、24名の方に参加いただきセミナーを開催いたしました。

●日時:平成30年2月28日(水)

●会場:中小企業基盤整備機構 東北本部 セミナー室

●ゲスト:南三陸さんさん商店会 会長 阿部 忠彦 氏

南三陸ハマーレ歌津商店会 会長 高橋 武一 氏

株式会社QPR 代表取締役 清田 智 氏

【プログラム】案内人:中小機構東北 仙台センター長 富岡 孝行

15:00 主催者挨拶 中小機構東北 本部長 高村 誠人

15:10 第1部 <識る>「震災語り部」セミナー

16:20 第2部 <関わる>「ワールドカフェ」参加者全員による対話

17:30 第3部 <始める>意見交換・交流会



※参加者24名！

商店街関係者・行政・支援機関等の多様な参加者が多く、新たな発見・気づきが生まれる期待！

※ワールドカフェにて、今後の交流人口拡大についての気づきを得る。案を展開し見える化・共有化！



第1部<識る>「震災語り部」セミナー

第2部<関わる>ワールドカフェ 参加者全員による対話

 阿部 忠彦 氏は、グループ化への苦労話・さんさん商店街の魅力を語る

・避難所での自治会運営で商店街関係者が中心となり苦労を共にしたことで、強固なつながり(グループ化)ができる。

・人口減の中、魅力ある商店街形成を図っていくために、視察に訪れる全国の商店街とも情報共有を行い交流人口拡大を図っていく。

 気づきの声！！
Q:インバウンドを呼び込むモノ・コトは？

A:特定地域の単独資源を利用した独自性の強いモノ・コトを展開する。
→南三陸は「タコ」が名産なのでオクトパス神社による交流人口拡大を図る。

 高橋 武一氏は、体験型のイベントといった差別化について語る

・地元向けの取扱商品が多い商店街であったが、地元の地域資源を扱った商品開発をして、観光客にも楽しんでもらえる工夫をする。リボンマップを作成し、分かりやすく南三陸町や商店街の魅力を発信する。

・滞在時間を増やすために、商工会と連携して交流型施設の「かもめ館」を建てて、体験型のイベントを開催していく。

 Q:どのターゲットにどう伝える

A:ターゲットを明確にすること！具体的に想定することで、伝えるための工夫が生まれる。
→修学旅行生を誘致して体験型イベント参加や町内周遊により南三陸町への滞在を図る。

第3部<始める>意見交換・交流会



※交流会にてワールドカフェで少し緊張したのをビールでほぐしながら意見交換を行う。積極的に名刺交換等を行い、ゆるーい連携が始まる。

※これから商店街での観光交流を予定する地域からは、「うちでもやりたい」との声！